



国民の森林・国有林

中部森林管理局

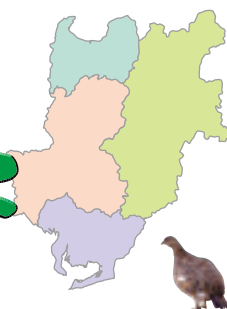
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



白馬岳周辺のパトロールの様子

貴重な高山植物を守るため 各地で保護活動を実施

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 高山植物保護活動の実施 P 2
	○ 総合的な学習での取り組みを！ P 2～4
	○ 学生・生徒等、国有林で実体験 P 5～6



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

高山植物保護活動の実施

— 貴重な高山植物を守るために —

「国有林野管理課」高山植物は、厳しい環境と短い生育期間に小さな草丈に色鮮やかで大きな花を咲かせる貴重な植物で、夏山を訪れる登山者を楽しませてくれます。

中部森林管理局管内は、北・中央・南アルプスをはじめ多くの山岳地があり、多くの貴重な高山植物の宝庫があることから、登山者からの採取や踏み荒らし等から高山植物を守る保護活動を行っています。

保護活動は森林管理署員の他に富士署・中信署・飛騨署でそれぞれ昭和四十五年頃からグリーンパトロール員（以下GP員）を、また、平成十八年度からは新規事業の「グリーン・サポーター・スタッフ（以下GSS）」を雇用し、立入規制のグリーンロープの設置、植物保護や登山者のマナーの啓発、清掃活動を行っています。

本年度は、富山県の室堂を中心とした立山、薬師岳、朝日岳等で大学生や山小屋関係者等のGP員二十三名、GSS十七名が活動しています。

また、長野県の北アルプスは白馬岳、上高地、乗鞍岳。中央アルプスは木曽駒ヶ岳、空木岳。南アルプスは塩見岳などの多くの山岳で大学生、退職者、山小屋関係者等のGP員十七名、GSS三十四



立山室堂でのパトロールの様子

名が活動しています。

さらに、岐阜県の白山、穂高、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、恵那山で森林インストラクター・地元山岳会員等のGSS二十三名が保護活動を実施しているほか、乗鞍岳、御嶽山、美ヶ原では、各署の関係署員とGP員、関係機関による合同パトロールを実施しパトロール員間の連絡や連携の強化を図っています。

パトロールの違反内容のとりまとめでは、近年は登山者のマナーが良くなり踏み荒らしやゴミ捨ては減少しています。が、相変わらず悪質な植物の盗採が見られ、写真撮影のための立入禁止区域への侵入が目立っています。

今後、国民の森林である国有林に貴重な高山植物が変わらぬ姿で咲き続けるように保護啓発活動に取り組んでいきます。

御嶽山（長野・岐阜両県側全域）

森林保全局パトロールを実施

〔岐阜署〕 霊峰御嶽山を管理する木曾



パンフレットを配布するスタッフ

署・岐阜署は七月二十四日、飛騨頂上・五ノ池周辺において合同パトロールを実施しました。

当日は、北アルプス、白山等の峰々が一望できる快晴の中で、グリーンサポータースタッフ（森林保護員）、木曾・岐阜森林管理署関係者十名が参加し、登山者へパンフレットを配布するなど高山植物等保護への協力について呼び掛けを行いました。

また、五ノ池・継子岳、四ノ池の登山道には、高山植物保護のためにグリーンロープを設置しており、古くなったロープの張り替えや新たな進入禁止ロープの設置、立入禁止看板を新たに設置するなど保全活動も併せて行いました。

本格的な夏山シーズンを迎え、国有林では『グリーンサポータースタッフ』（延べ約七十人）を配置し、御嶽山におけるきめ細かな森林の保護保全活動（ゴミの投棄、森林への踏み荒らし、高山植物の摘み取り、登山道の荒廃などの防止）に取り組むこととしていますが、今後、各

署の連携をより強化し、御嶽山一帯を共通の意識を持って保護保全を行うっていくこととしています。

総合的な学習での取り組みを！

森林・林業体験学習研修会を開催

〔指導普及課〕 中部森林管理局は、中学校での「総合的な学習」における森林環境教育の推進を図るため、教職員の方々を対象として、森林・林業に対する知識を深め、森林環境教育のプログラム作成等の参考にしていただくため、管内の各地域において、森林・林業体験学習研修会等を開催しました。

なお、各地域における研修会等の様子は次のとおりです。

○木曽地域

〔木曽ふれあいセンター〕 八月三日、木曾森林環境保全ふれあいセンターと木曽地方事務所林務課が合同で、木祖村の木曾国有林において、森林・林業体験学習研修会を開催しました。

今回は、地域の九つの学校から総勢二十四名の参加での実施となりました。

午前中は、木曾ヒノキ、ブナ等の多種・多様な林相を呈している「水木沢郷土の森」で、原始の森コースと太古の森コースの二つの遊歩道を散策しながら、動植物の観察や森林の機能などについて学習しました。

午後からは鉢盛山の麓、味噌川ダム上

流に移動し、二十八年生のヒノキ林において除伐Ⅱ類作業を体験学習しました。

ノコギリなどの使用方法や除伐の意味などの説明を行い、作業を体験するとともに、森林整備の内容や必要性などについて理解してもらい、作業終了後、校庭



美しい水木沢天然林の説明に聞き入る参加者たち

などにある樹木の大きさなどを、生徒達に興味を持ってもらうために、身近にあるダンボールで作った二等辺直角三角形の定規と巻き尺を用いて、木の高さの測り方を実演し研修会を終了しました。

参加した教職員の皆さんは、充実した研修会の内容に満足した様子で、「普段経験できない貴重な研修であり、今後の学習へ活かしていける内容でした。」「森林整備を体験して、森林を守ることの大切さや森林の良さを実感した。」などと感想を聞かせて下さいました。

○上小地域

【指導普及課】 八月七日、指導普及課、東信署、上小地方事務所の職員が、「湯ノ丸高原自然休養林」において森林・林業体験学習研修会を開催しました。

当日は、東御市内の小学校教諭等が参加し、「池ノ平湿原」で動植物の観察や森林の機能などの学習を行った後、近くのカラマツ人工林において、除伐Ⅱ類作業を行いました。

作業に先立ち、「作業の安全確保」や



除伐作業では、テレビ局の取材を受ける

「ノコギリなど道具の使用方法」の説明を受けた先生方はそれぞれ熱心に作業に取り組んでいました。

最後に、間伐木やその枝を使って昆虫や動物などの木工クラフト作成を行い、先生方からは、「伐採作業はたいへんなことがよくわかった。」「児童が自然に出ていろいろな植物とふれ合うことが大切だ。」などの意見をいただきました。

今後は、さらに多くの教職員の方々に参加いただけるよう取り組み、学校の総合学習に取り入れていただきたいと考えています。

○高山地域

【飛騨署】 八月七日、高山市一之宮町宮国有林において、高山市の小学校の教育に携わる八名を対象に、岐阜県飛騨農林事務所と連携しネイチャーゲーム等の森林環境教育研修会を開催しました。

これまでの取り組みは、当署の「遊々

の森」と岐阜県の「緑のこども会議」の活動など、比較的先生が受け身的であったものを、飛騨地域でさらに子供たちへの森林環境教育の取り組みを広げることが目的に、飛騨農林事務所と定期的な打合せを進め、県教育事務所にも働きかけを行う中、高山市教育委員会の協力を得て実施したものです。

先生方には「子供たちと森林を結ぶパイプ役」として教室、校庭、近くの公園で手軽に取り入れてもらえるゲームや教材により、自らが体験していただくことを目的に勉強して、森林の中で様々な葉を集めて行う「葉っぱはばジャンケン」や森の落とし物を探す「宝さがし」、自然の風景を感じ取る「カメラゲーム」など五感を使って森林と触れあっていたいただきました。

参加した先生からは、「子供たちと森林へ入ることはできて、どうしたらよいのか分からなかった。子供と森林のふれあいの方が分かって良かった。」「森林の中にいるみたいにくっきり見たり匂いをかいだりでき、また、いろんな作業を通じて森林との結びつきができることが分



宝さがしで木の葉などの宝物を見せ合う参加者

かった。」といった感想が聞かれました。

宮国有林は清流宮川の源流として、また、高山市の合併に伴い市街地住民の四十割の飲料水となっているなど、高山市としても市街地の近郊林として更に市民との関わりを深めていく希望もあることから、当署としても宮国有林を活用した多様な取り組みを実施しているところであり、今後も県、市と連携し開かれた国有林として、子供たちのふれあいの場などに取り組んでいく考えです。

○尾張旭地域

【名古屋事務所】 八月九日、瀬戸国有林、森林交流館において、尾張旭市小中学校教職員を対象とした森林環境教育研修会を開催しました。

この研修会は、教職員の方に森林・林業の大切さや楽しさを、学んでいただくことにより、学校教育に少しでも取り入れていただくことを目的に開催したものです。

研修会には、尾張旭市教育委員会からの呼びかけにより、十五名の教職員の方が参加されました。

最初に小林所長よりあいさつを兼ねて「美しい森林づくり」について説明があり、その後、職員より国有林の概要、名古屋事務所が取り組んでいる、「名古屋シティ・フォレスト事業」、「森林ふれあい講座」等についての説明と、森林の働きや森林整備の必要性について、小中学生の森林教室等で使用しているパワー

ポイントを用いて行いました。

その後、場所を屋外に移し、ヒノキの間伐材を利用した丸太切り体験と壁掛け作りを行いました。木の部材や枝、ドンブリなどを丸太切り体験で切った輪切り板に貼り付け、オリジナルの壁飾りを完成させました。

昼食後は、森林交流館を案内した後、愛知県ネイチャーゲーム協会の青山裕子会長の指導で、ネイチャーゲームを体験しました。ネイチャーゲームの概念について学び、実際にいくつかのゲームを体験し、五感を使い自然とふれあいながら遊ぶ楽しさを学びました。

猛暑の中での研修会でしたが、参加された教職員の方からは、「森林への理解が深まった」、「自然の中で楽しめた。」「さっそく学活でやってみよう。」などの感想が聞かれ、今後の学校教育に、森林の大切さや楽しさが多くの子供たちに伝わっていくことを期待し研修会を終えました。



自然とふれあいながらネイチャーゲームを体験

岐阜県・愛知県との 連絡調整について

「企画調整室」七月十日と十一日、中部森林管理局と管内の岐阜県、愛知県の林務担当部局担当者との打合せ会議を開催しました。間伐の推進等による多様で健全な森林づくりと、国産材の安定供給を通じた林業・木材関連産業の振興を図る上で、国有林が率先してこれらを実践し、民有林施策と連携することが求められていることから、これまで長野県、富山県の林政協議会に加えて、岐阜県・愛知県との協議の場を設けたものです。

十日の岐阜県とは、中部局と名古屋事務所から、本年度の事業方針や岐阜県内で設定を検討している低コスト作業システムモデル林、名古屋シティー・フォレスト・事業等、名古屋事務所行事予定等について説明しました。県からは、岐阜県森林づくり基本計画に基づく間伐推進や人材育成、森林管理委員会が主体となった森林整備等について説明を受け、また、事業実施段階での国有林との連携に関する提案や署等のイベント情報提供の要請等がありました。

十一日の愛知県とは、双方の事業の説明のほか、愛知森林管理事務所も加わり国有林の流域管理推進アクションプログラムの実施や森林教室の開催、森林組合育成の連携等について議論しました。

いずれの会議においても活発な意見交



連絡調整会議の様子

換が行われ、両県からは、担い手の確保、高性能林業機械の普及、小規模・不在所有者林の団地化などの民有林の課題と地域の実情に根ざした施策を聞き、理解を深めることができました。今後も打合せ会議を開催し相互の情報交換を進めるとともに、各森林管理署と県の出先事務所や市町村との間でも、森林整備協定の締結や個々の事業・施策を持ち寄り調整するなどにより、国有林野事業と民有林施策との連携を強化していくことが重要であると確認し、有意義な会議となりました。

地域が一体となって 市・町長と意見交換会

「富山署」七月十九日に、国有林野等の関係市町との意見交換を図る、富山県地域振興団体協議会国有林野等振興部会が市町の首長や中部局・署関係者などが出席し、富山市内の市町村会館で開催しました。

はじめに、部会長の伊東上市町長から



富山県との意見交換会の様子

森林には地球温暖化防止対策や保健文化機能など多くの公益的機能があり、この機能を維持増進させるため、民有林・国有林問わず地域が一体となった取り組みが必要とのあいさつがあり、小林中部局次長が来賓の挨拶を行いました。

事業説明では間島企画調整室長が中部局の取り組み概要を、塚腰富山署次長及び熊沢流域管理調整官が署の取り組み内容などを説明し、意見交換に移りました。

各市町からは、緑資源機構が談合問題で廃止案がでているが、継続する事業はどうなるのか。地域材の利用拡大を国が率先して取り組むようにお願いしたい、森林整備は長期間継続した作業が必要であり、現場を熟知した地元の労務で行うよう入札制度の変更により適切に対応してほしい、などの意見が出されました。

最後に、加藤富山署長が、美しい森林づくりを推進するためには民国が一体となった取り組みが必要であり、地域の協力を得ながら事業を進めていきたいとあいさつし、盛会のうちに会議を終了しました。

学生・生徒等、国有林で実体験

◆高校生がインターンシップ

【飛騨署】 七月三十日～八月二日の四日間、岐阜県立飛騨高山高等学校環境科学科二年生の奥洞さん、野田さんの二名がインターンシップによる国有林野事業の体験を行いました。

これは、岐阜県が一昨年から取り組んでいる社会人としての豊かな人間性の育成を目的とした事業の一つで、過去二年間に国有林で四名が就職しています。

当署は、広く国有林野事業の取り組みを体験してもらうため、初日は「現場の作業」「観光資源としての国有林」をテーマに、松葉粧司町方班班長から話と実作業、森林ふれあい係長、町方森林官により乗鞍岳での保全活動を体験しました。

二日目は「公益的機能の発揮」をテーマに治山課長及び庄川治山事業所主任から治山工事現場の見学と実習を大白川国有林において実施しました。

三日目は、「国有林の職場」をテーマに当署職員のOJTも兼ねて、昨年と今年の新規採用職員である、川久保・目黒係員から入庁の動機と職場での経験を語ってもらう場を設け、午後からは「美しい森林づくり」をテーマに業務第二課長、販売係長により木材の有効利用について現地見学を含めて学びました。

四日目は、「山の作業と安全」をテーマに甲森林官により下刈と除伐体験及び請負事業体職員との交流のほか、木工クラフトを行いました。

今回参加した二名からは、「いろんなところを見て勉強になりました。また、周りの人たちに森の大切さを伝えることも重要な仕事だと分かりました。」「国有林は伐採が主な仕事だと思っていましたが、いろんな現場へ行って職場の見方が変わりました。四日間の経験を通して自分の進路をしっかりと考えたいと思います。」との感想が聞かれました。

当署では、講師も研修の一つと位置づけ多様なカリキュラムを設定。初めて講師をした新規採用職員からは「良い勉強になった。」の感想も、今年の研修生も国有林への就職を希望することを期待し、四日間が終了しました。

なお、今回参加した生徒の奥洞さんは林野庁の「森の聞き書き甲子園」に応募し選考されています。



金山国有林の休憩小屋前で松葉班長から山の仕事の話聞く研修生

◆地元中学生が保育作業を体験

【東濃署】 八月一日、付知中学校から二人の生徒が職場体験に訪れました。

この取り組みは付知中学校の一年生が「ふるさと付知を知る」をテーマに、関心のある地元の職場を体験するというもので、毎年夏休みの期間を利用して実施されています。

当日は、加子母裏木曾国有林にある「裏木曾古事の森」で古事の森育成協議会のメンバーにより、下刈作業が予定されていたことから「現場の仕事が経験したい。」という生徒からの希望により、一緒に下刈を体験しました。



足下を確認しながら丁寧に草刈り

森林での作業は初めてということで最初は緊張した面持ちでしたが、育成協議会会長安江鉄臣さんから鎌の使い方や注意点を教わり、下刈鎌を使って丁寧に草を刈っていました。

午後は場所を移動して保育間伐を行いました。どの木を伐ったら良いか自分たちで考えながら選木し、鋸を使用して真剣な表情で木を伐っていました。

作業が終わると普段できない体験に満足した様子で、将来は林業に関わる仕事に就きたいと頼もしい夢を語ってくれました。

◆林業の担い手が職場を体験

【木曾署】 長野県林業大学校では、実習を重視したカリキュラムによる教育を行っているっており、その一環として夏季休暇中における体験研修を実施していますが、このうち、当署へ職場体験を希望した一学年三名（生駒豊文さん、實崎遼太郎さん、横山裕貴さん）が八月三日から十日まで、管内国有林で各種業務を体験しました。

内容は、歩道整備や除伐作業のほか、高山植物保護活動（登山者等へのパンフレット配布、御嶽山への清掃登山）、中高生の森林ボランティア・森林教室の補助など様々な分野にわたって行いました。歩道整備と除伐作業では、職員から作業方法及び安全指導を受けた後、下刈鎌や鋸等を使用して作業を行い、また、刃物の研磨など、道具の手入れの仕方についても学んだところで、三名の学生は、職員のアドバイスを受けながら、黙々と作業をこなしていました。

学生からは「大変でしたが、やり甲斐



チェーンソーの手入れについて説明を受ける林大生

もあり、楽しかったです。いろいろな作業を体験する中で、森林管理署の業務や役割がわかり良かったです。」といった感想が寄せられました。

約一週間と短い期間で内容も多岐にわたりましたが、将来、林業の担い手となる三名の学生が今回の経験を通じ、知識の習得と技術の研鑽の一助になればと考えています。

◆愛知県の高校生が木曽谷で活動を実施

「木曽署」学校の夏休みを利用して八月七、十日に愛知県立阿久比高校、猿投農林高校生が当署管内の国有林を訪れ、森林ボランティア、自然休養林見学の活動を行いました。

八月七日の阿久比高校の森林ボランティアは、当町が愛知用水の恩恵を受けていることから、上流水源地域への森林整備に貢献しようと平成九年から実施しており、今年度も学校の呼び掛けに賛同した生徒ら三十五名が参加し、長野県西部地震災害復旧地「国民の森」において、

森林整備を行いました。植栽後二十年以上経過したヒノキ、ミズナラ等の樹種を被圧しているハンノキの除伐と枝落としの作業を中心に、普段では体験することのない伐採等を職員の指導のもと、仲間と協力しながら行いました。

また、八月十日の猿投農林高校は農事見学として林産工芸科一年生三十九名が赤沢自然休養林を訪れ、休養林の森林植生や森林浴について学習しました。木曽ヒノキ等の約三百年を経過した森林を目の当たりにし、生徒達は職員の説明にメモを取るなど熱心に聞き入り、また、森林セラピーに関し、森林が人体に効果的な作用をもたらす話をするとき大きな関心を寄せていました。

両校ともそれぞれに体験活動を行ったところですが、森林・林業の役割や重要性について、再認識していただけた二日間となりました。



ハンノキの除伐作業を体験(阿久比高校)

各地からのたより

森の案内人盛況のうちに終わる

「愛知所」当所では環境教育の一環として、例年、森林教室等各種イベントをNPO団体等と連携して地域密着型の各種イベントに取り組んでいます。

今年度も五月二十四日から八月六日まで、段戸国有林の裏谷原生林において「森の案内人」として豊川市内小学校ほか十五校、約千人を対象として森林教室を実施しました。

小学生達は普段の生活とは離れた山中で、森林の働きや、原生林の自然を目で見た実際に触れてみて「歩くのはとても疲れたけど楽しかった。」「森林の働きに色々なものがあることが解ってよかった。」と嬉しい感想を話してくれました。



森林の話、わかったよ

今年度も五ヶ月経過したところですが、今後は、NPO団体等共催による、漁民の森づくりや小学生、大学生の体験林業等、地域と連携しながら環境教育に取り組んでいきたいと考えています。

小雨の中、

下刈・除伐作業等を実施

「愛知所」七月十九日、第九回名古屋シティ・フォレスト事業「雑草に負けず大きく育てよう」(下刈作業)が段戸国有林において開催され、十一名の隊員が参加しました。

現地は、平成十五年度に本事業にてヒノキの植付を行い、その後、継続して下刈作業を実施している箇所です。

当日は、あいにくの小雨模様で、雨具を着用しての作業となりました。参加隊員は植栽木を傷つけないよう丁寧に下刈を行い、予定より早く作業は完了できました。

午後は、作業道具を鎌から鋸に持ち替え、針広混交林とするための複層林施業地において、植栽木を被圧しているシロモジ除去(除伐)作業と、樹名板取り付け作業の二班に分かれ実施しました。

除伐作業では、株立ちになったシロモジを除去することにより、植栽された広葉樹の生長が期待されるとともに、樹名板の設置により、隣接する東海自然歩道利用者への森林づくりや樹木等のPRになることと思います。



参加した隊員のみなさん

参加隊員からは、「下刈と除伐を体験でき大変だったが楽しかった。」「樹名板の取り付けを行い勉強になった。」等の意見も聞かれ、怪我もなく無事終了することができ、有意義な一日となったことと思います。

ヒノキの香りをかいだよ！

「名古屋事務所」七月二十七日～二十九日の三日間、名古屋市内の大曽根地区の夏祭りイベントに名古屋事務所から参加しました。

この催しは地元のお店街が行ったもので、子供たちが少しでも自然に興味を持ち、森林の大切さを学んで欲しいとの要望に応えたものです。

名古屋事務所からは森林の大切さを学ぶパネル展示、丸太切り体験と鉛筆立て・壁掛け作りなどを行いました。

梅雨も明け三日間とも真夏の太陽が照りつけていましたが、小学生を中心に大

勢の親子連れが丸太切りなどの体験に訪れました。鋸を持つのに慣れていない子が多く、使い初めは苦労していましたが、暑さに負けず、最後まで切り進んでいました。

切り口からのヒノキの良い香りに感激しながら、自分で切った木に穴を開け自分だけの鉛筆立てや壁飾りを完成させていました。

今後こういった機会を通じ、子供たちに森林や自然に興味を持ってもらえるよう取り組んで行きたいと思っています。



切れるかな

暑さに負けずクラフト熱中

「東濃署」八月十四日、中津川市付知町にある道の駅「花街道付知」において「第二七回つけち夢まつり」が開催され、当署から六名が参加しました。

このイベントは、町民とお盆の時期に帰省した家族とのふれあいを目的として開催されており、毎年多くの家族連れで、大変な賑わいを見せています。

当日は、うだるような暑さでしたが三十張りほどのテントが立ち並び、盛況の中、当署も木工クラフト教室や木製ネームプレートの作成、パネルを使用した国有林のPR等を行いました。中でも木工クラフト教室は子供達に大変な人気で、様々な大きさの木片を真剣な表情で選びながら熱心に作品を完成させていました。

中には四十センチを超える大きな作品やきれいに色を塗られた作品など、子供たちの豊かな発想力に参加した職員も感心していました。



力作を両手にニッコリ

初夏の湯ノ丸高原を満喫

「指導普及課」第一回森林パノラマウォークを七月十九日湯ノ丸・高峰自然休養林において開催しました。

このイベントは、一般市民を対象に国有林において、自然観察等を楽しみながら豊かな自然に親しみ学んでいただくとともに、国有林野事業の様々な取り組みをPRすることを目的に募集したもので、百二十五名の応募者の中から抽選で

選ばれた七十五名の方が参加しました。当日は、登山コース（東麓ノ登ノ水ノ塔ノ高峰温泉）五班と散策コース（鏡池ノ三方ヶ峰ノ雲上の丘）三班に分かれ、東信署及び局職員の案内により実施しました。

登山コースは、霧のため三百六十度のパノラマとはなりませんでしたが、テガタチドリ、タカネニガナなどが可憐に咲き、参加者の目を楽しませてくれました。

散策コースでは生活環境保全林整備事業により整備された歩道沿いに、アヤマ・ヤマオタマキなど様々な植物が咲き乱れ、なかでも高山植物の女王と呼ばれるコマクサは、東御市など地元の手厚い保護により三方ヶ峰に咲きはこつていました。

参加者からは、「今度は友だちを案内してみたい。」「単独ではこのような場所へ登山することは出来ないが、イベントを組んでいただいてありがとうございました。」との声も聞かれ霧の中の登山・散策でしたが満足していただけたようです。



熱心に説明する下岡森林官

国有林モニターが 赤沢自然休養林で現地視察

【企画調整室】開かれた「国民の森林」の実現に向けた取り組みの一つとして国有林モニターを実施しているところですが、今回初の試みとしてモニターの皆さんを対象にした現地視察会を、七月三十一日、森林浴発祥の地である木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で開催しました。

この現地視察会は、国有林の現地を見てみたいとのモニターの皆さんからのご要望にお応えするとともに、現地視察を通じて国有林の業務に関する理解を深めていただくことを目的としたものです。

当日は晴天に恵まれ、平成十六年度から本年度までのモニター経験者の中から今回の視察会に参加を希望された方とご家族等、総勢十九名が参加しました。

現地視察会の開始に当たり、森林教室広場で木曽森林管理署長より管内国有林と赤沢自然休養林の概要を説明し、森林鉄道（樹齢三〇〇年以上のヒノキの森林）駒鳥コース（ふれあいの道と経由する散策コースを、木曽ヒノキの成立過程、自生する植物、伊勢神宮の御神木の伐採方法等について、木曽森林管理署業務第一課長の説明を聞きながら約三時間の視察を行いました。

胸高直径八十四センチメートル、樹高三十二メートルのヒノキ大樹の前では木曽ヒノキの取り扱



説明を熱心に聞き入るモニターのみなさん

いについて説明を行い「将来にわたって木曽ヒノキを維持管理していくために次代を担うヒノキの幼樹を育てる必要がある」、それには十分な光を地表に届けるための抜き切りという作業が必要であること」と、等、木曽ヒノキの育成に関する中部森林管理局の考え方について理解を深めていただきました。

後日、参加した皆さんから「森林の歴史が分かった。」「知人にも教えたい。」「秋にも来てみたい。」「他のコースも見たい。」「等の意見に加えて、「もつと専門的な話が聞きたかった。」「時間が短かった。」「もつと深い森林を歩きたかった。」「御神木伐採のビデオを見たかった。」「等の様々なご要望もいただきましたので、次回に活かしていきたいと考えています。

人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽林野庁出向（森林整備部治山課施設計画班計画係長へ）（飛騨署治山課長）
松井健太郎

▽林野庁出向（林政部経営課組合事業班監査係長へ）（北信署総務課総務係長）
可知 英樹

▽総務部職員厚生課共済組合係長（南信署豊丘森林事務所首席森林官）
有賀 茂

▽南信森林管理署豊丘森林事務所首席森林官（職員厚生課共済組合係長）
今村 正之

▽飛騨森林管理署治山課長（飛騨署治山課技術専門官）
山田 茂樹

▽飛騨森林管理署治山課技術専門官（東濃署業務第二課技術専門官）
山口 元

▽飛騨森林管理署双六森林事務所森林官（飛騨署久々野森林事務所森林官）
武田 英雄

▽岐阜森林管理署業務第一課技術専門官（岐阜署業務第一課森林ふれあい係長）
洞口 豊美

▽東濃森林管理署業務第二課技術専門官（岐阜署業務第一課技術専門官）
内藤 治夫

▽北信森林管理署総務課総務係長（南信署業務第二課販売係長）
井上 元晴

▽北信森林管理署黒姫森林事務所森林官（中信署大野川森林事務所森林官）
坪川 直子

▽中信森林管理署大野川森林事務所森林官（森林整備課造林係）
須貝佳那子

▽南信森林管理署業務第二課販売係長（北信署黒姫森林事務所森林官）
上田 啓

▽飛騨森林管理署久々野森林事務所森林官（飛騨署中洞森林事務所森林官）
堀 恵助

▽飛騨森林管理署中洞森林事務所森林官（岐阜署総務課経理係長）
芹田 滋弘

▽飛騨森林管理署尾神森林事務所森林官（計画課経営計画第二係）
川本 芳光

▽岐阜森林管理署総務課経理係長（飛騨署双六森林事務所森林官）
湯浅 正明

▽岐阜森林管理署業務第一課森林ふれあい係長（飛騨署尾神森林事務所森林官）
岩倉 豊樹

▽岐阜森林管理署業務第二課付（岐阜署業務第一課付）
井上 典子

八月八日付

シリーズ14

実験林・試験地等紹介



『ヒノキ複層林試験』

「森林技術センター」長野県上松町小川入国有林で昭和五十九年から実施している「ヒノキ複層林試験」は、複層林施業として、六〇％の伐採を行ったヒノキ人工林（伐採時林齢八七年生）において、林床にはササが無く、伐採時にヘクター当たり一〇万本を超えるヒノキ稚樹があり、天然更新による複層林を目指しました。しかしながら、伐採後の下層植生は、マルバノキ等の落葉低木で覆われ、ヒノキ稚樹は生長に必要な陽光を得られず被圧され消失が進み次代を担うヒノキが生育できない状況でありました。このことから、落葉低木が下層植生であるヒノキ林の天然更新技術を確立するため、平成十二年度に試験地を設定し更新補助作業と併せ更新調査を開始しました。

試験地は、長野県木曽郡上松町小川入国有林六七い林小班に設定し、落葉低木の除去方法別に、全刈区（毎年・隔年）、筋刈区（毎年・隔年）、対照区に分け実施しました。

作業軽減を目的とした隔年の刈払いに併せ更に、筋刈の刈幅も、下層植生高幅

ヒノキ稚樹本数（平成18年現在）

試験区	作業方法	ヒノキ本数 (本/ha)	相対光量子 (%)
No.1	全刈・毎年	124,000	11
No.2	3m刈・隔年	113,750	6
No.3	対照	15,500	1
No.4	全刈・隔年	34,500	12
No.5	6m刈・毎年	20,750	2
No.6	6m刈・隔年	94,750	11
No.7	3m刈・毎年	45,250	19



ヒノキ稚樹の状況



更新補助作業（筋刈3m）の状況

（三メートル）と植生高幅の二倍刈払いと分けその効果を比較しました。

現在のヒノキ稚樹本数は表のとおりで、ヒノキ稚樹は多いところでヘクター当たり一二万本を超えています。また、対照区を除きヒノキ稚樹の少ないところでは、ヘクター当たり二万本程度となっていました。

更新補助作業開始から五年が経過したものの、相対光量子とヒノキ稚樹本数に相関関係が現れるまでに至っていないことや、隔年や刈幅別といった作業軽減の比較についても、効果的な

方法を見出すまでに至っていませんが、徐々に効果が現れ始めているので、今後も継続調査を行っていくこととしています。

伐採後二十年が経過し、上層木の林冠も鬱閉が進んだことから受光伐を行い複層林施業を進めていきたいと考えています。

◇所在地：長野県木曽郡上松町

小川入国有林六七い林小班

行事・会議等の予定

◎名古屋シティフォレスト事業

9月1日 木曽署管内

◎防災訓練

9月3日 中部森林管理局管内

◎流域調整官会議

9月4・5日 中部森林管理局

◎森林ふれあい講座

9月22日 愛知所管内

◎木曽川・森づくりin赤沢

9月29日 木曽署管内



『日本一海から遠い地点』

【北信署】日本で、海から一番遠い地点は、北緯三十六度十分二十五秒、東経百三十八度三十五分〇一秒の地点で、長野県佐久市田口字榊山の旧白田町の榊山国有林十二林班れ小班にあります。

この地点は、静岡県富士市の田子の浦港から百十四・八六キロメートル、新潟県上越市直江津から百十四・八六キロメートル、糸魚川市梶屋敷から百十四・八七キロメートル、神奈川県小田原市国府津から百十四・八六キロメートル離れています。ちなみに北海道で最も離れた地点は、石狩山地美瑛岳の東約七キロメートルで、海岸線から百八・二キロメートルのようです。

この場所に自動車で行けるのは、麓の雨川ダム湖畔にある保養センター湖月荘まで、田口峠に向かって県道九十三号線を登っていくと、右手にあります。

その先はゲートで閉鎖された林道を一・三キロメートル、さらに沢づたいの歩道を一



日本一海から
遠い地点の標柱



◇アクセス方法
【公共交通機関】
JR白田駅から田口峠へ自動車で約十五分、徒歩五十分。

キロメートル程、合計二・三キロメートルの道程をひたすら歩いて登ると群馬県南北村との境界尾根に程近い長野県の山の中に標識が設置されています。

平成八年に筑波大学の学生が海から一番遠い場所を建設省（現国土交通省）国土地理院に問い合わせたのがきっかけで、国土地理院の職員がコンピュータを駆使し、一ヶ月かけて割り出したそうです。

なお、日本で海岸線から一番遠い地点へ行くと、佐久市観光協会から『到達認定書』が頂けるそうですので、行ってみたいかがでしょうか。

問い合わせ、申請場所は：佐久市役所 白田支所 経済課商工観光係
電話（〇二六七）八二―三二―一一

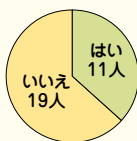
第1回国有林モニターアンケートの結果概要

企画調整室

平成19年度国有林モニターへの第一回目のアンケートを7月に実施し、30名のモニターの皆様に答えていただきました。その概要は次のとおりです。

問 国有林モニターになる以前から「美しい森林づくり」という言葉を知っていましたか。

解答



問 「美しい森林づくり」を進めるに当たっては何を重点的に取り組むべきだと思いますか。（一つだけ選択）

解答

複層林、混交林等多様な森林…………… 14人
計画的な間伐の実施…………… 7
間伐材の利用促進…………… 4
山地災害を防止する治山事業…………… 3
間伐経費の節減…………… 2

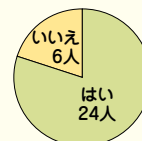
問 木材や木材製品にどのようなイメージを持っていますか。（複数選択）

解答

健康によい…………… 23人
居住性がよい…………… 21
木肌が美しい…………… 19
湿度を調整する…………… 19
再生産できる…………… 18
肌触りがいい…………… 17
高級感がある…………… 14
環境保全に役立つ…………… 14
二酸化炭素を固定する…………… 12
価格が高い…………… 12
燃えやすい…………… 8
軽い割に強い…………… 6
地震に弱い…………… 5

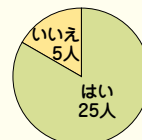
問 住宅を建てるとしたら木造にしますか。

解答



問 森林計画を作る際には検討会を開いています。機会があればその会議に参加したいと思いますか。

解答



問 中部森林管理局の管内に、日本三大美林の一つである木曽ヒノキの森林があることを知っていますか。

解答

見たことがある…………… 12人
知っているが見たことはない…………… 15
知らない…………… 3

問 将来にわたって木曽ヒノキを維持管理していくため、森林の状況に応じて、その取扱方法を森林計画に定めています。このうち、地面を笹が覆っていたり森林内に光が届かないためにヒノキの幼樹が生育していない森林については、抜き切りをして光を当ててヒノキの幼樹を育てる施業が必要だと考えています。このことについて、どうお考えになりますか。

解答

適切な施業は必要である…………… 30人（全員）
施業は必要ない…………… 0